

# セコムグループ2030年ビジョン

外部環境が大きく変化し、不確実性が増す社会において、「セコムグループ2030年ビジョン」や「セコムグループ ロードマップ2022」の実現に向けた取り組みを進めています。

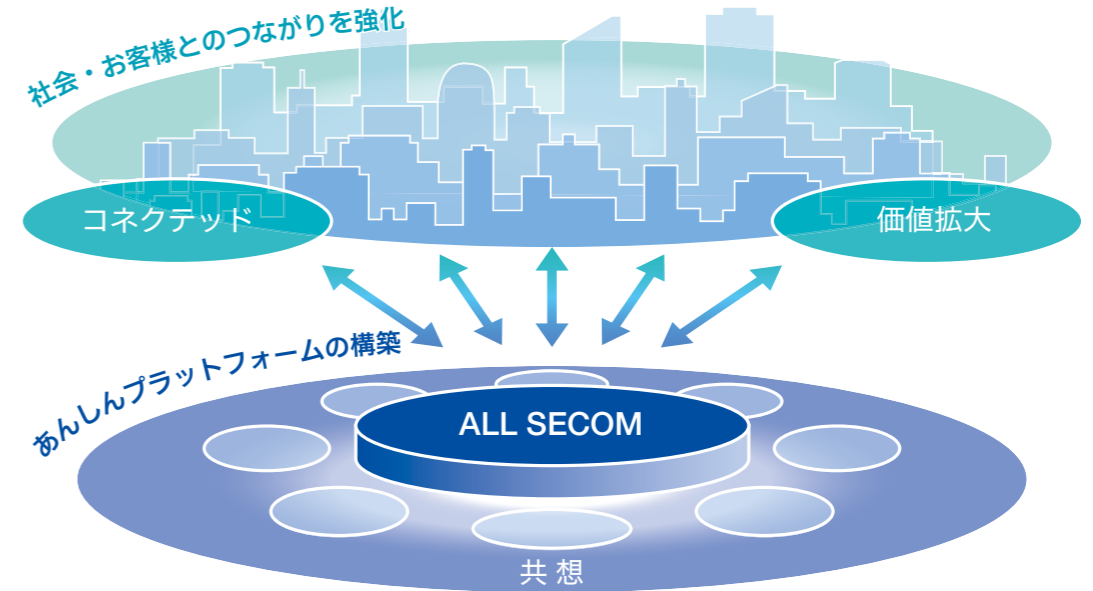
## 「あんしんプラットフォーム」構想

セコムは、2017年5月に策定した「セコムグループ2030年ビジョン」のもとに、「いつでも・どこでも・誰にとっても・切れ目のない安心」を提供する「あんしんプラットフォーム」構想の実現をめざしています。「あんしんプラットフォーム」とは、セコムが培ってきた社会とのつながりをベースに、セコムと想いを共にする産・官・学などのパートナーが参加して、技術や知識を持ち寄り、暮らしや社会に安心を提供する社会インフラのことです。

企業活動や日常生活で、事件や事故など“想定外の事態”

が起きると、日常の流れが止まり、生産性が大幅に低下します。加えて、その被害が大きいほど、復旧までの時間を要します。「事件・事故」「サイバー犯罪」「自然災害」「病気・老化」といったリスクに対して、平時は「事前の備え」を怠らず、有事には「事態の把握」と「被害の最小化」に努め、「事後の復旧」を迅速に行えば、安心して生活することができます。セコムは、これら4つの要素を「セコムあんしんフロー」と定め、あらゆるリスクに対して“切れ目のない安心”を提供できるように、サービスやシステムを進化させています。

## 「あんしんプラットフォーム」構想で実現をめざすサービス概念図



## 「あんしんプラットフォーム」構想実現のための戦略

セコムでは、「あんしんプラットフォーム」を構築するために、グループの総力を結集して相乗効果を生み出す“ALL SECOM”戦略や、セコムと想いを共にするパートナーが参画して新たな価値を創出するオープンイノベーション“共想”戦略を推進しています。さらに、最新の情報技術を活用したビッグデータ解析により、お客様の潜在ニーズを見いだして、つながりを増やしていく“コネクテッド”戦略や、日常のお困りごとに、サービスの付加価値として快適・便利なサービスを提供する“価値拡大”戦略を展開しています。

## 「セコムグループ ロードマップ2022」を策定

2030年のめざす姿に到達するために、バックキャストिंग\*の思考で、2018年5月、「セコムグループ ロードマップ2022」を策定しました。

セコムは、企業や社会の脅威になり得る「テクノロジーの進化」と「労働力人口の減少」への対応を、優先課題と位置づけています。そして、優先課題から高まるニーズを事業機会につなげ、社会の生産性向上に寄与していきます。

\*バックキャストिंग: 未来の目標時点から振り返って、現在するべきことを考える方法

### サービスイノベーションへの挑戦

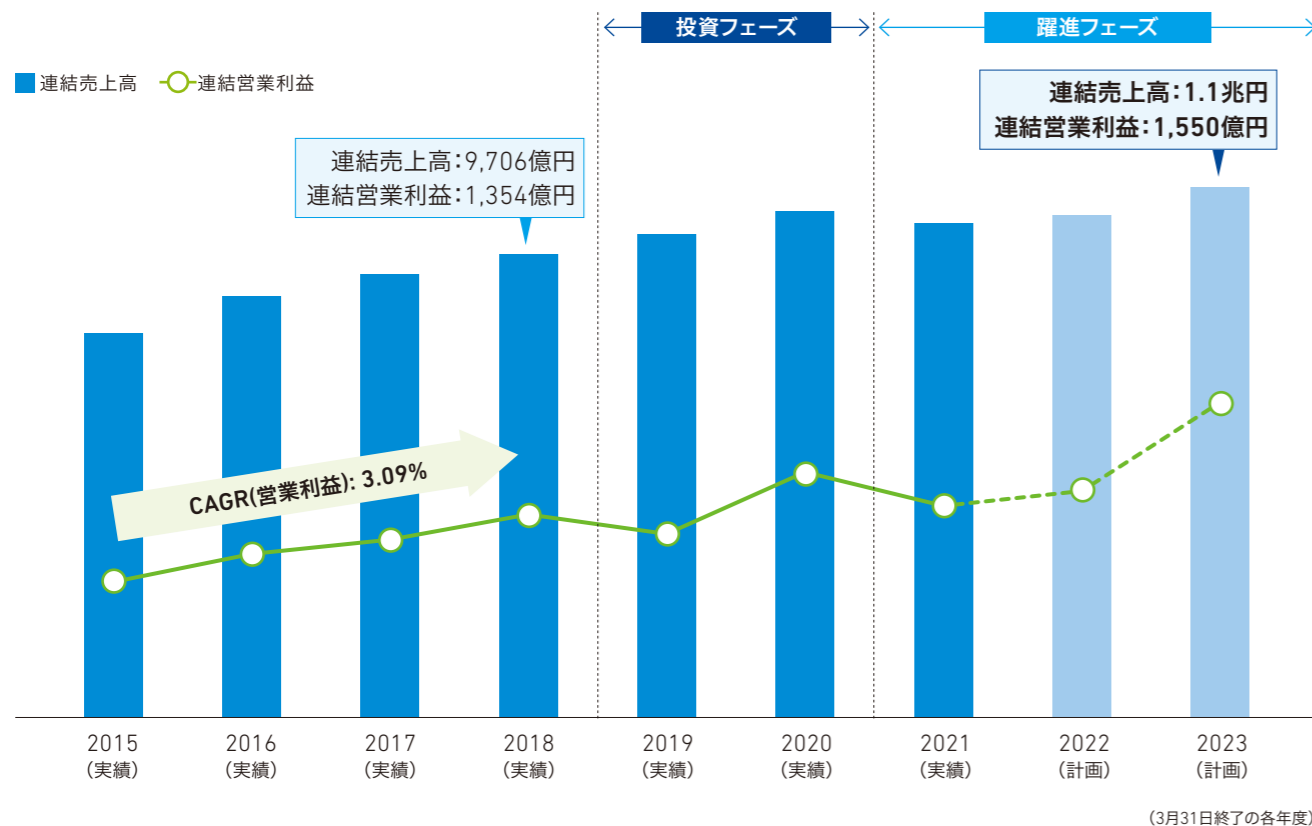
セコムには、「提供できるものを売る」という発想ではなく、「社会の持続的成長に必要なものは何か」という、一歩先を見据えた発想でサービスを創出したいという強い想いがあります。その実現に向けて、人材と技術、それらを活用する能力の向上を図り、優先課題から高まるニーズを先取りし、新たな価値を創造するサービスイノベーションに挑んでいます。

セコムは、「テクノロジーの進化」に伴って、さまざまなものがインターネットにつながり、ドローンやロボットの利用拡大、無人店舗やキャッシュレス決済の増加、スマートホームの普及などがもたらされ、フィジカルとサイバーを融合させた「つながる社会のセキュリティ」需要が高まると考えています。

### セコムグループ ロードマップ2022

ご参考までに、日本会計基準による2023年3月期の業績目標を以下に記載します。

連結売上高 **1.1兆円** 連結営業利益 **1,550億円** ROE **8%超** 配当性向 **40%台前半**を目安



また、「労働力人口の減少」に伴い、企業では非中核業務を外部に委託するニーズが高まり、またご家庭では共働き家庭の増加を背景に高齢者や子どもの見守りニーズが高まっています。このような「誰かに頼みたい」需要に対して、セコムならではの「安全・安心・快適・便利」なサービスを創出していきたいと考えています。

特に、新型コロナウイルスの感染拡大以降、さまざまな分野でデジタル化やICTの活用が進むなど急速な変化が起きています。このような「コロナ禍の社会変革」需要もとらえ、社会課題の解決に寄与したいと考えています。

### 成長投資とセコムのDX

セコムは、「つながる社会のセキュリティ」や「誰かに頼みたい」需要に応えるために、自己変革(SECOM Transformation)を図る必要性を認識し、システム投資と人への投資に取り組んでいます。

システム投資は、サービス品質と生産性の向上を目的に、社内のDX(Digital Transformation)への投資を推進しています。セキュリティサービス事業の業務システムには独特の事務処理が存在することから、社内の事務の在り方を見直し、部門ごとに独立していたシステムを統合・強化することにより、業務の効率化を促進して包括的なサービス提供を可能にする「事務系ITシステムの刷新」を推進しています。これにより、グループの事業やサービスのスピードアップや事務処理能力の向上など、業務運営の大幅な効率化が期待できます。また、業務の精度向上と効率化に効果があるAI/IoT、RPAに投資し、生産性の向上を図っています。さらに、「テクノロジーの進化」と「労働力人口の減少」に対応し、最新技術を用いた新たなサービス・商品を開発していきます。また、それらのサービス・商品をご利用いただけるように、既存の

ご契約先のセキュリティ機器を新技術が利用可能な機能を搭載した製品に置き換える活動に、積極的に資金を投入しています。

人への投資は、特にIT分野やグローバルビジネスなどで必要な専門知識と経験を持つ人材の採用・育成に注力しています。組織面では、働きやすい職場の環境整備や各種研修の充実に投資し、社員の働きがいを高めることにより、自己実現を支援しています。

### 「セコムグループ ロードマップ2022」の実現に向けて

国内においては投資を生かした新サービス展開や生産性の向上を図ります。海外においては、成長著しいASEAN市場を中心に、さらなるサービス拡大を図るとともに、成長力のある未進出国への積極的な展開を実施していきます。また、2023年3月末までの5年間で、自己資本を活用した総額2,000億円のM&A枠を設けており、国内外のフィジカルセキュリティ、サイバーセキュリティ、BPO・ICT、ヘルスケアの各分野と、優れた技術力を保有するベンチャー企業を投資対象と位置づけています。さらにコロナ禍を背景にした新たな社会ニーズに積極的に対応するとともに、「セコムグループ ロードマップ2022」の実現に向けて、一歩一歩進めていくことで、企業価値の向上をめざします。